

## ◆ 平成 29 年度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：かわごえ環境ネット

20A-39

代表者：理事長 小瀬博之

URL : <http://kawagoekankyo.net/news/>

### 1. 活動が必要とされた状況

かわごえ環境ネットは武蔵野の面影を残す雑木林の保全再生活動を行っており、市の森林公園計画地などで生き物調査を続けている。これらの成果は市民への発信、市のデータベースに記録していくことなどで、貴重なものが失われないように努めてきた。

その中できのこ（菌類）についても情報が集積し、冊子の形で残すことになったが、通常の予算では賅えないので、助成をお願いすることにした。

### 2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

- ①キノコ編集委員会を開く 4/12 9名 以後不定期に調査・撮影を続ける
- ②「(仮称)川越森林公園」計画地での定例の調査・保全活動の中でキノコに関するデータも収集する。
- ③市民対象の観察会を開く。「雑木林自然観察会」6/3 25名、「キノコの観察会」7/2 28名「虫の観察会」7/30 31名
- ④秋になると頻りにキノコ編集委員会を開くとともに、近隣のフィールドに調査・撮影に出向く
- ⑤12月以降は編集作業に集中し、専門家に原稿を監修してもらう。1月下旬にすべての原稿が完成。印刷の段取りになる。A5版、オールカラー、100ページの装丁で、1500冊製本。



野鳥の巣箱かけ



虫の観察会

### 3. 活動の成果

2月中旬に冊子ができあがり、2/25の環境フォーラムで頒布を開始し、かなりの数を購入して頂いた。今後、700冊は公共機関などへの無償頒布を行い、川越の自然への多面的な理解を誘う一助となればと期待している。キノコは生態的にも菌根を通じて植物と深い関りがあることなどはあまり知られていないが、この冊子を機会に理解してもらえるのではないかと。



キノコの観察会

### 4. 今後に残された課題

川越は都心への利便性があり、今でも人口が増えている。その分、畑や雑木林が次々と開発され宅地化している。それだけに自然環境の喪失で、生き物がまるごと消えるケースが多い。調査しながら、記録し、残せるものは残すよう働きかけることが急務である。

